

「的確な除草剤散布」と「適期の培土」で生育量を確保！

1 播種後出芽前の除草剤散布の注意点

- ・播種後は速やかに、土壌が湿った状態で除草剤を散布する。
- ・ただし、処理直後に多量の降雨があると薬害により発芽不良となる恐れがあるので、天候を見極めて出芽前までに散布する。

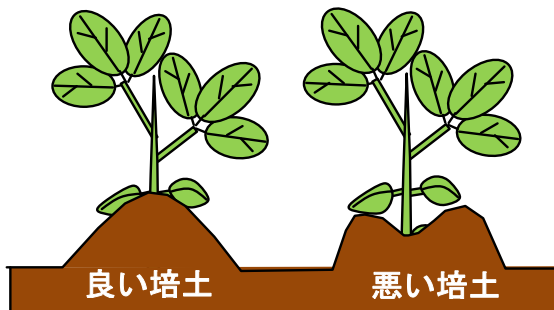
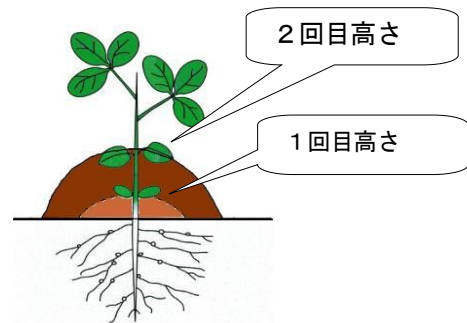
薬剤名	10a当り散布量
ラクサー乳剤	400～600ml+水100L
プロールプラス乳剤	
ラクサー粒剤	4～8kg

2 培土

- ・梅雨の晴れ間を利用し、2回培土により雑草防除を徹底する。

< 培土作業の目安 >

	時期	高さ
1回目	本葉2～3葉期 (播種後20～25日頃)	子葉が埋まる程度
2回目	本葉4～5葉期 (播種後30～35日頃)	初生葉が埋まる程度



培土は株元までしっかりとかける

株元に凹みのあるM字型培土は **×**

- × 凹んだ部分に水がたまり、湿害や病害が発生しやすい
- × 新根が伸びず、生育不良となる
- × 株間に発生する雑草を抑制できない

【注意】

黒根腐病が多発する圃場の培土は1回のみとし、5葉期頃に初生葉が埋まる程度まで土を上げる（通常の2回目培土の時期と高さ）。培土は1回のため、その間必要に応じて除草対策を行う。

3 溝の手直し

- ・培土でできた溝は、速やかに額縁排水溝と深く掘り下げた排水口に連結する。
- ・降雨後は圃場を巡回し、水がたまっていないか必ず確認し、溝の手直しを行う。

作業が終わったら、生産履歴の記入をしましょう。